

移民の歴史（ペルー）

約100年前、日本では、はたらくところがない人たちが、たくさんいました。
日本とペルーは国と国が約束をしました。
そして、日本人が4年間、ペルーの農園ではたらいて、一日1ソル20センティスの給料をもらえることになりました。

1899年2月28日に790人の日本人が『佐倉丸』という船で横浜を出発しました。4月3日にペルーのカヤオに着きました。
最初にペルーに行った日本人は、山口県や新潟県の人たちでした。
でも、病気で死んだ人が200人いました。とちゅうで220人が日本へ帰りました。

1903年 1,080人の日本人が 家族といっしょにペルーに行きました。
ペルーでは、どろぼうや強盗にあたりしましたが、がんばりました。そして、ペルーの人たちから日本人は信用されました。
日本人は、いっしょうけんめいはたらいて、町で自分の店を持つ人もふえました。だいくやとこやを始めました。

1923年までに102回、日本からペルーに船が行きました。昔は飛行機ではなく船でペルーに行きました。全部で18,164人がペルーに行きました。
そして、農園や工場で いっしょうけんめいはたらきました。子どもたちのために日本人の学校をたくさん作りました。

1941年 日本はアメリカと戦争を始めました。ペルーにいた日本人は自由に仕事ができなくなったり、学校も行けなくなりました。
でも、戦争が終わると、またがんばってはたらきました。

4年間で日本に帰るのではなく、ペルーに永住（ずっとペルーに住むこと）しようとしてペルーの人となかよくして、いっしょうけんめい仕事をしました。そして、ペルーの人たちから信頼されました。
日系人は、しょうじきで、よくはたらいたのでペルーの国のためになりました。
日系人は「太平洋クラブ」というクラブを作って、スポーツもがんばりました。

1980年 ペルーではたらくところなくなっていました。そして、今度はペルーの日系人たちが、ひいおじいさん、ひいおばあさん、おじいさん、おばあさんの生まれた国、日本へはたらきにくるようになりました。

日本にいるペルーの人たちは、「キョウダイ」というグループを作って、助け合っています。

※1999年 朝日新聞社発行「ペルーを知ろう CONOZCAMOS EL PERU」をもとに作成した。